

時代とともに変わるルート

団体、研究家らが案内地図作製

四国遍路道の変遷

巡礼遍路研究会会長
性善寺住職

柴谷 宗叔

四国八十八ヶ所を巡る遍路道。徳島県鳴門市の一番霊山寺から、時計回りに高知、愛媛を経て、香川県さぬき市の88番大窪寺まで、1周約1200キロ。もっともこれは歩き遍路の場合であって、車は山道や細い道を通れないので、回り道をするため1400キロくらいだとされている。

遍路道とはお遍路さんの通る道である。開創1200年の2014年には年間50万人もの参拝者があったとされるが、20年の新型コロナウイルス感染症大以降は落ち込んでいる。とはいえ、十万人単位の人々が訪れている霊地であることには変わりない。拠点となる札所や仏具店では、案内地図が販売され、お遍路さんはこれを頼りに次の札所へと向かう。

今、多くの徒歩遍路が使っているのは、へんろみち保存協力会編『四国遍路ひとり歩き同行二人』という、地図である。主要ルートを赤線で示し、その道沿いにはシールや立札を設置し、遍路を導いてくれる。一部複数のルートがあるところは、それらも記されている。宿泊情報も掲載されているので、徒歩遍路のバイブルのようになっている書物である。使ってみ

論



しばたに・そつしゅく氏 1954年、大阪市生まれ。早稲田大学部卒、高野山真言宗大鳥寺住職。著書に『江戸初期の四国遍路』(法蔵館)、『四国遍路(ころの旅路)』(慶友社)など。

ると確かにわかり易く便利である。私も徒歩遍路を志す方々に推薦している書物だ。

ところが、ここに示された道を絶対の正しい道だと信じて、一歩たりとも外れないようにたどっている人が意外に多いのに驚いた。この地図は1990年の創刊で、同協力を主宰していた故宮崎樹氏が、自分で歩いて当時歩き易かったルートを示したもので(以下、宮崎地区と重なる部分も多いが、昔はトンネルや大きな橋はなかったため、当然別ルートとな

江戸初期の古道再現

新道建設で寸断 真言僧の記録もとに

下、宮崎地区とする)、必ずしも歴史的な古道を示しているのではないということだ。たとえば、高知県安芸市から南国市に至る道で、自転車道に赤線がひかれていて、これは土佐電鉄の廃線跡で、昭和時代には鉄道が走っていたので、人の歩く道ではありえない。持たぬ人がいるのは悲しい。

また、澄禪は現在の札所番号通りには回っていないので、そのした部分は大きく異なる箇所がある。あくまで学術調査で調べた道なので、通行不能の道を行くことは不可能である。したがって無理にこの道を選ぶことがないようお願いしたい。たとえば、室戸岬の24番最御崎寺から岬の南西に下りる道は、車道のスカイライン建設のため、徒歩道はずたずたに寸断され崖になっているところもある。車道を下りるしかないのでは

離優先と道幅優先では違う道を表す示されることもしばしばだ。逆に再開など道が付け替えられた結果、古道が失われる場合もある。たとえば徳島市内の徳島大医学部構内には旧伊予街道が通っていたが、現在は通行不能である。お遍路さんが通る道という意味では、迂回路も含めすべてが遍路道といって良いだろう。車用の遍路地図も複数市販されているが、出版社によって違うルートが記されていることもある。どれを行っても目的には着く。新しい道ができればそちらのほうが早い場合もある。こうして時代とともに変化していくのが遍路道なのである。

このほか、宮崎地区にない道で、地元の研究家らが調べて、ボランティアで通行可能になった古道もあちこちにある。21番大窪寺(徳島県阿南市)周辺の「かも道」「いわや道」(最新の地図には掲載)や、23番栗王寺(同県美波町)から水落への四国の道、足摺岬に至る一部山道、大窪寺への一部古道など。こうした努力で古道が再現されることは非常に喜ばしい。

私はいく「一番たくさんお遍路さんが通っているのは高速道路。だからこれがメインの遍路道」と話す。実際、ツアーバスが利用する高速道路の区間が一番多くの遍路が通っている道なのは間違いない。だから、遍路道はこうあらねばならないという既成概念は捨てて、通り易い道を選ぶという風面に、発想を転換することをお勧めしたい。

既成概念捨て通りやすい経路を

鉄道)、谷汲(名鉄廃止)とはほぼ半数。京都や奈良の都心部と、鋼索線(書写、成相)を含めれば、鉄道で行けない寺はごくわずかと言え。萩原井泉水「観音巡礼」(1928)には「徒歩する者は洋服にリュックを負ったあるかう会の会員といふてあひ」と記している。一方、四国は鉄道の発達が遅れたので、徒歩遍路道が保存されてきた。基本的に明治時代までは歩かなくなったので、徒歩道しかなかった。昭和になって車社会になつた。昭和になって車社会になると、車道が中心になつていく。もともとの街道を上げた場合もあるが、集落を避けて新道が作られる場合もある。山越えの道にはトンネルが掘られ、大きな川には橋が架かる。徒歩でも車道のほうが歩き易ければ当然車道が選ばれ、旧道は廃れていく。高速道路ができる。車はそちらに流れる。さすがに徒歩では通行不可なので、旧道は残る。こうしてルートは際限なく増えていく。